

49. 「会津身不知」の摘葉時期と果実品質向上効果

福島県果樹試験場会津試験地・平成7～11年度試験研究成績書

1 部 門 名 果樹－カキ－品質

分類コード 04-05-27000000

2 担 当 者 佐々木正剛・伊藤恵造

3 要 旨

‘会津身不知’の着色には太陽光線が強く関与しているため、摘葉処理による着色向上と果実品質について検討した。摘葉時期は9月中旬または10月上旬とし、果実に触れている葉1、2枚および下枝の果実を日陰にしている葉を摘葉した。平核無用カラーチャートを用い果皮色 4.5以上の果実(着色良果)を南北に分けて収穫し、収量、果皮色、果重、果径、糖度、硬度などを調査した。

(1) 9月中旬摘葉区、10月上旬摘葉区とも、収穫率(着色良果の割合)は無処理区に比べ優るか同等で、摘葉処理による着色向上効果が認められた。

(2) 摘葉処理による着色向上効果は、北側の果実の方が南側よりも顕著であった。

(3) 摘葉処理区では相対照度が増加し、また果皮色の向上も認められた。

(4) 摘葉処理区の果重や果径、糖度、硬度などは、無処理区の値とほぼ同等であった。

(5) 以上の結果から、果実に触れている1、2枚程度の葉を摘葉することにより着色向上効果が認められた。なお、摘葉処理による果実肥大、果実品質に対する影響は小さいと考えられた。